

公表

## 児童発達支援 事業所における自己評価結果

事業所名		長岡療育園通園センター				
		公表日 令和7年3月28日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15	2	・学校の長期休暇で放デイ利用児が多い時は場所を変更して対応している。	・コアグループの皆様には、長期休暇中に場所を移動していただいている。不慣れな思いをしないように配慮が必要。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	2	・法令に定められた人数は配置されている。	・園全体として職員の確保が課題。特に看護職員の確保は喫緊の課題。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	17	0	・園内は、バリアフリーで移動できる。	・駐車場から園内へのアクセスについて、降雪時は車いすが動かしづらくなる。玄関ホール等を利用していただく等の配慮が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	16	1	・毎日清掃することで、清潔な環境を維持している。	・ベッドで過ごした方が良い利用児に対して、ベッド等の使用に係るスペースの確保が課題。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	16	1	・通園ホール内での個別スペースは間仕切りされていないが、興奮等で個室対応が必要な利用児がいない。	必要時は簡易パーティションの使用や、ボランティア室を利用する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	16	1	・職員同士で気付きを共有している。毎回活動内容や、利用時の様子を保育士間を中心に共有している。	・朝礼や終礼を中心に、保育士以外の職員とも情報共有している。今後も継続することで質を維持する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16	1	・このアンケートを活用している。	・事業所評価と家族向けアンケートの結果を職員間で共有することで、支援の質を向上させる。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17	0	・TCで意見が言いやすい。	・多職種間の連携を密にし、今後も意見が言いやすい職場環境を維持する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14	3	・外部の第三者評価は取り入れていないが、ご家族からの家権を業務改善につなげている。	・実地指導や集団指導の指摘事項を真摯に受け止めていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	17	0	・集合研修とオンラインを併用し、研修に参加している。また、中堅職員による自主勉強会を実施している。	・今後も、他部署が実施している自主勉強会にも積極的に参加する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	17	0	・公表されている。	・今後も適正に公表する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	17	0	・個別面談や、支援機関会議で上がった内容を計画に盛り込んでいる。	・活動内容や、利用時の様子を保育士間を中心に職員全体で共有する仕組みを維持する。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	17	0	・担当職員を中心に、チームカンファレンス内で検討されている。	・担当職員以外でも意見を言いやすい環境を維持し、実りあるチームカンファレンスを継続する。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	17	0	・集団活動の中でも、個々の目標に沿った支援を実施している。	・個々を大切にしている姿勢を維持する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	17	0	・標準化されたツールとして、MEPAを活用している。	・インフォーマルなアセスメント時に、主観が入り込む可能性がある点を再認識しながら、客観的なアセスメントを心掛ける。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17	0	・本人支援、家族支援は重点的に実施している。・移行支援は、主に就学相談やこども園等との平行通園に係る支援を実施している。	・地域支援、地域連携については、長岡市子ども家庭センターと連携しながら、コンサルテーション機能も含めて取り組んでいく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	17	0	・立案担当者を中心にチームカンファレンスで内容を共有、当日リーダーが参加利用者に合わせた内容で支援している。	・毎日の振り返りを継続する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	17	0	・年間を通し、様々な内容を計画している。・繰り返し実施することで得られる利用児へのフィードバックを意識する。	・同じ内容の活動でも、繰り返し実施することで得られメリットについて、ご家族へも伝えていく。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	17	0	・集団活動を中心に実施している。	・集団の活動の中で、個々の目標に向かって取り組むために工夫していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	17	0	・保育士を中心に役割分担を行っている。	・今後も、論点をまとめ、効率的に情報共有していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	17	0	・活動面、生活面の振り返りを毎日終礼で行っている。	・今後も、論点をまとめ、効率的に情報共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	17	0	・電子カルテに記録している。	・記録検討委員会を中心に、効率的で読みやすく、情報を収集しやすい記録方法について、継続協議する。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17	0	・少なくとも2か月1回以上、目録計画に変更が必要な際は適宜計画の見直しを行っている。	・定期利用のない利用児へのモニタリングの際、状態が大きく変化していることがあるため柔軟に計画を修正する。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	17	0	・児発管が中心に会議へ参加している。	・会議で得られた情報は、引き続き職員間で情報共有する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	17	0	・ケア児連絡会の場を活用し連携している。 ・個別ケースについては、関係機関で連携しながら支援している。	・今後も、医療、保健、福祉での連携し、担当者間の顔の見える関係を広げていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	17	0	・相談支援専門員が中心となり、こども園等とも連携しながら支援を行っているケースがある。	・新しく子ども園等を利用する児に対し、子ども園との連携を強化する。必要に応じ、保育所等訪問支援に繋げる。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	17	0	・長岡市のスケジュールにのっとり、就学相談を実施している。	・長岡市以外の就学時に対しては、地元の機関が就学相談を行っている。今後も連携しながら支援していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	17	0	・長岡市子ども家庭センター、他児童発達支援センター2カ所と連携しながら、市内の児童発達支援事業所や放課後等サービス事業所向けに「子ども版気軽な勉強会」を実施した。	・長岡市自立支援協議会の中には子どもに関する専門部会が設置されていない。引き続き、関係機関と連携しながらコンサルテーションを行っていく。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	17	0	・集合研修、オンライン研修を併用しながら、研修に参加している。	・研修参加職員に偏りがないように調整する。伝達研修の機会を設け、職員間で情報共有する。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	17	0	・こどもに関する部会がないため、子ども家庭センターや他児童発達支援センターと協力しながら、情報交換会や勉強会を実施した。	・設問25、28の項目を継続する。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	12	5	・法人全体行事「太陽の広場」では、地域住民や地域の子ども園、学校が参加している。	・通園センター独自の取り組みでは、地域の中で他のこどもと活動する機会を設けていないことが課題。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	17	0	・親子参加の活動を日々実施している。発達段階や状況や課題は、保護者と共有しやすい。	・今後も、保護者と職員のコミュニケーションを密にしていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	17	0	・匡ケア児センター「ゆいじいる」の研修についても、保護者に情報提供している。	・定期的な利用がない児に対して、研修会の周知方法を検討する。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	17	0	・契約締結時に説明している。	・説明内容について、保護者にとっては覚えていることが難しい内容が多い。不明点への質問に対し、随時説明していく。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	17	0	・個別面談などの機会を、保護者の意思を確認している。	・重症児の意思確認が難しいため、保護者から助言をいただきながら意向を確認していく。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	17	0	・個別面談時に「児童発達支援計画」を提示しながら説明を行っている。	・計画書の内容が保護者に伝わりやすいように更新していく。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	17	0	・個別面談の機会等を利用し、相談に応じながら助言や支援を行っている。	・保護者が相談しやすい環境や雰囲気心掛ける。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	17	0	・長岡療育園全体の家族会の活動や、重症児者を守る会の活動を行っている。 ・コロナが5類になったため、きょうだい児向けのイベントを復活させた。	・家族会や守る会については、通所家族の参加が少ないことが課題。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	17	0	・可能な限り迅速に対応している。	・いつでも相談しやすい環境や雰囲気づくりを心掛ける。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	17	0	・長岡療育園として、広報誌「どうしん」を発刊している。また、通園独自に「通園だより」を毎月発行している。	・ホームページにも必要な情報を掲載しているため、定期的に閲覧していただくための工夫が必要。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	17	0	・職員向けに研修の機会も設け、十分注意している。	・コンピューターウイルスの感染による情報漏洩が社会問題となっている為、ITリテラシーを高めていくことが課題。
	43	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	17	0	・保護者との意思疎通や情報伝達は密に行うように心掛けている。	・設問36のとおり、重症児との意思疎通は永遠の課題のため、継続的に協議していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16	1	・法人行事「太陽の広場」へ、長岡療育園全体として参加している。長岡療育園全体行事は、外来患者様の受け入れも可能としている。 ・今年度は、地域のライオンズクラブも行事に参加した。	・コロナ禍以降、地域住民等の受け入れが難しくなったことが課題。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	17	0	・各種委員会を中心にマニュアルを策定。訓練を実施している。	・マニュアルの詳細について、どのように保護者へ周知するかが課題。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	17	0	・非常災害、感染症流行時のBCP策定済み。 ・長岡療育園全体として、災害訓練実施。	・BCPの詳細について、どのように保護者へ周知するかが課題。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	17	0	・外来看護師とも情報共有している。 ・電子カルテも利用し、医療に関する情報を職員間で共有している。	・他医院処方内容の更新について、保護者からの情報提供がない場合は、把握できないことが課題。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	17	0	・徹底して対応を行っている。	・除去食の混入を防ぐため、今後も栄養士との連携を密に行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	17	0	・必要に応じ、安全対策を講じている。 ・ハッチバックタイプの送迎車と、乗車確認票により、取り残しを防止している。	・引き続き安全管理を徹底する。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	17	0	・必要に応じ周知している。 ・通園だよりで、災害伝言ダイヤルの活用を周知している。	・引き続き、家族と連携しながら安全管理を徹底する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	17	0	・長岡療育園全体の仕組みとして実施。	・事故発生時には、その日のうちに振り返りを行い、再発防止策を検討。原因と対策について保護者へ周知している。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	17	0	・長岡療育園全体の仕組みとして実施。 ・月に1回以上、職員間で協議している。	・倫理の研修等、様々な機会の中で、虐待防止、権利擁護についての協議を継続する。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	17	0	・長岡療育園全体としての仕組みとして実施。 ・今年度も身体拘束の事案はなかった。	・今後も、可能な限り身体拘束を行わずに済むように、代替案をとことん検討する姿勢を維持する。	